

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	統括部局：教務機構	担当部局：教務機構・教務機構（高等教育推進センター）
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.3 教育方法	
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。	
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）	
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性	
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性	
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 履修者数が教室の収容定員を超える科目をなくす。(教務機構)	→教室収容定員を超えた履修科目数、履修制限科目数(教務機構)	C	C	B	B	/
2. 学習効果を向上させるために、全学履修登録単位数の上限を年間50単位未満にする。(教務機構)	→50単位以上の学部・学科をなくす	B	B	B	B	/
3. 学習を進める上で必要な項目が適切に盛り込まれたシラバスを設計し、記載を徹底する。(教務機構)	→シラバスの項目の年度ごとの検証、項目未記入件数(教務機構)	B	B	B	B	/
4. 共通教育としての初年次教育に高学年の学生によるピアサポートシステムを制度化する。(教務機構・高等教育推進センター)	→ピアサポートシステムの設置(教務機構・高等教育推進センター)	C	C	B	A	/
5. 全教員が授業調査結果を教育改善に結びつける→全教員に授業調査結果についての改善コメントの提出を求める。(高等教育推進センター)	→授業改善コメント用紙の提出率を50%にする(高等教育推進センター)	C	B	B	B	/
6. GPA制度を改善し、各種の選考での積極的利用を可能にする(教務機構)	→新たなGPAスコア算定基準の策定、各種選考でのGPAの利用度(教務機構)	C	C	C	B	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
7. 成績評価基準の厳格性を高める(教務部)	→科目ごとの成績分布の公表(教務部)	/	C	B	B	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年度開講の教務課・共通教育センター提供全学科目については、160クラスの開講分中、2クラスのみが、教室定員を超過したクラス開講になっている。また、学部科目含む全体の状況としては、7500あまりのクラス開講分中、170クラスが教室定員を超過しており、またそれらの多くが200名以上の履修者の科目が約6割を占める状況である。新たな建設予定の講義棟については、履修データを分析し最も不足する教室規模を割り出し教室サイズを決めるなどの対応を行っているが、学部等の協力も得て、開講曜日・時限の分散化をさらに推進する必要がある。加えて、使用率が低い教室については、使用率を高めるため、授業形態にふさわしい教室改修に向け、学部と教務機構が協同し法人に対して要望していく。
目標2	完成年度を迎えていない国際学部を除く全学部で、1年間に登録できる履修単位数を50単位未満に設定している。前述の完成年度に達していない学部においても2013年度には50単位未満に設定する予定である。なお、編入学学生が1年間に登録できる履修単位数を50単位未満に設定することが今後の課題である。
目標3	現在「講義目的・到達目標」「各回ごとの授業内容」「成績評価方法・基準」を必須項目として、遺漏の無い記載を求めている。また、内容の精粗については、各科目提供部署にチェック体制の強化を依頼し、多少の温度差はあるが取り組みがなされている。2013年度秋学期からは、学生システムリプレースに同期しシラバスシステムを改修し、適切に記入されていないとシラバス作成を完了できない設定に強化する予定である。
目標4	2011年度秋学期から2012年度春学期にかけ、学修支援制度として学部学生によるラーニングアシスタント(Learning Assistant, L. A.)制度を試行的に実施してきたが、2012年度春学期に全学制度とすることについて全学的な合意を得られたため、同秋学期より同制度の運用を開始した。ほとんどの学部で制度活用がなされており、初任者対象の共通研修も充実した内容で実施できている。
目標5	2012年度の授業改善コメントの提出率は、全体で35.8% (マークシートでの調査実施担当者延2335名中837名) と、2011年度(44.3% : 1614名中715名) よりも下がっている。2010年度の20%程度から大幅に改善しているが、目標としていた50%には届かなかった。提出率が上がらない一因として、学生の満足度が高いということが考えられる。これはこれまでの授業調査に基づいて改善を行ってきた成果であり、改善の余地が少なくなっていることが考えられる。ただし、2012年度には、調査項目の見直しを実施したほか、各授業提供部署が授業調査の結果から改善コメントを含む総評を作成、調査報告書に掲載し、学生・教職員に公表するなど、教育改善に向けた不断の取組を継続している。 また、その他の授業改善・教育改善の方策として、全学的には、LMSの操作講習会(LUNA講習会)や、知識の習得や事例の共有を目的とするFD講演会などを実施している。各学部においても研修会や研究会、授業報告会、授業参観なども行っている(詳細は高等教育推進センターNewsLetter参照)。 なお、昨年度、コメント用紙のダウンロード方法がわかりにくいという問合せが多くあった件に対しては、コメント入力用のホームページを作成することにより対応を行った。
目標6	2010年度に新たなGPA算定基準の見直しを策定したが成案には至らず、2011年度は算定基準の見直しは進捗していない。GPAの活用については、全学的には留学派遣時の選考や成績優秀者の顕彰制度等に活用しているが、今後は学生による履修管理、チューター制度などによる履修指導への活用に向けての検討が必要である。学生に対しては、2012年度から各学部等の履修心得に、全学共通の内容で制度趣旨やこれまで以上に具体的な算出基準を掲載し、GPA制度への理解を高め計画的な履修を勧めている。
目標7	実質的な成績データの公開および学内での意識共有を目的に、2012年度春学期から成績統計データを学内イントラネットで公開している。今後はこれらの活用方策の検討に加え、成績評価基準をどのように厳格化できるかが課題と言える。
備考	